

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 警察本部 生活安全部
重点戦略	III 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【重点】犯罪抑止対策の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	刑法犯認知件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	9,249	9,157	9,065	9,000
現況値	9,436件/年(2019年)	実績値	7,535	8,007		
目標値	9,000件/年	達成率	※122.7%	※114.4%		
備考		達成度	5	※5		

3 関連する事業名

- ・地域の情勢に応じた犯罪抑止対策の推進
- ・防犯ボランティア等との連携強化
- ・子ども・女性をはじめとした人身の安全を確保するための対策の推進
- ・国際化支援・広報活動事業
- ・子ども見守り防犯カメラ設置支援事業
- ・犯罪被害者等支援金支給事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

犯罪発生状況の分析に基づき、県民総ぐるみによる各種犯罪抑止対策を推進した結果、2022年中の刑法犯認知件数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う行動制限が緩和されたこともあり、前年比で増加したものの、目標については達成することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

無施錠による自転車盗や侵入盗の被害等が多発したことから、犯罪抑止対策の柱を「鍵掛け」と位置付け、「鍵掛けで『安全』・電話対策で『安心』～今こそみんなで防犯対策！推進キャンペーン～」と銘打った広報施策を強力に展開し、鍵掛けの徹底を広く県民に周知していく。また、コロナ禍前の令和元年の犯罪発生状況と其後の犯罪発生状況を比較し、発生時間帯や発生場所、被害者の特徴等に関する多角的な分析を行い、分析結果を踏まえた効果的な犯罪抑止対策を推進するとともに、防犯ボランティア団体との合同パトロールや活動用資機材の提供等の支援を行い、地域住民等による自主防犯活動を促進していく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 刑事部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【重点】捜査の高度化・科学化等の推進による犯罪の徹底検挙		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	殺人、強盗等の重要犯罪検挙率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	93.9% (2019年)	実績値	101.0	97.9		
目標値	100.0%	達成率	101%	97.9%		
備考		達成度	※5	※4		

3 関連する事業名

- ・重要犯罪等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業
- ・重要犯罪等への対処に向けた通信指令システム等の高度化事業
- ・特殊詐欺等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

事案認知時には的確な初動捜査を推進するとともに、各種システムを活用したプロファイリング等の犯罪関連情報の分析、DNA型鑑定等の科学技術の活用、最新機器を活用した防犯カメラ画像の解析等を実施し、岡山市南区で発生した実母被害の殺人事件や津山市内で連続発生していた現住建造物等放火・非現住建造物等放火事件等を検挙した結果、2022年中の重要犯罪検挙率は97.9%（全国順位第8位）と、高い水準を維持した。

6 今後の施策推進に向けての課題

重要犯罪検挙率100%を達成するため、事案認知時には、発生地を管轄する警察署において迅速に初動捜査体制を確立し、警察本部や隣接警察署の捜査員を早期に投入して、防犯カメラ画像やDNA型資料等、犯人の特定や犯罪の立証に資する客観証拠の収集を徹底するとともに、各種システムを活用した分析・DNA型鑑定を積極的に行うなど、捜査の高度化・科学化を推進していく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 交通部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【重点】交通事故防止対策の推進		

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	人身交通事故件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4,100	3,800	3,500	3,300
現況値	4,690件/年(2019年)	実績値	4,683	4,348		
目標値	3,300件/年	達成率	※87.6%	※87.4%		
備考		達成度	3	3		

3 関連する事業名

- ・交通安全施設の整備
- ・高齢者への参加・体験・実践型の交通安全教育をはじめとした交通事故防止対策の推進
- ・可搬式速度違反自動取締装置を活用した速度抑制対策

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2022年中は、可搬式速度違反自動取締装置等を活用して、通学路や生活道路の安全確保に向けた交通指導取締りを強化した。また、交通事故死者数の約6割を占める高齢者に対して、ドライブレコーダーを活用した個別指導や交通安全体験車「おかやまふれ愛号」による参加・体験・実践型の交通安全教育を実施したほか、信号機や道路標識等の交通安全施設の整備等を行った。これらの取組を推進した結果、人身交通事故件数について、前年比で減少したものの、目標を達成することはできなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

2022年中、人身交通事故件数は前年比で減少したものの、目標の達成には至らず、また、交通事故死者数が増加し、人口10万人当たりの死者数が全国ワーストとなるなど、県下の交通情勢は極めて厳しい状況にある。こうした状況を踏まえ、可搬式速度違反自動取締装置等を活用した交通指導取締り、高齢者の特性に応じた個別指導や交通安全教育等、交通事故情勢を踏まえたきめ細かな交通事故防止対策を推進していく。加えて、交通規制や信号運用の見直し、交通安全施設の整備等により、安全・安心で人に優しい交通環境を整備していく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 警察本部 生活安全部

重点戦略	III 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】特殊詐欺対策の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	特殊詐欺の認知件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100	100	100	100
現況値	125件(2017~2019年の平均値)	実績値	114	159		
目標値	100件	達成率	※87.7%	※62.9%		
備考		達成度	3	2		

3 関連する事業名

- ・幅広い年齢層に対する被害防止広報の徹底
- ・金融機関等と連携した水際対策の推進
- ・身近な人を守る気運の醸成に向けた取組の推進
- ・消費者教育啓発促進事業

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2022年中、被害の大半を占める高齢者だけではなく、幅広い年齢層に対して創意工夫を凝らした特殊詐欺の被害防止に向けた広報啓発活動を推進し、「だまされた振り作戦」や職務質問による受け子等の現場検挙、上位被疑者に対する突き上げ捜査を推進した結果、被害額は約3億1,640万円と、前年比で約1,140万円減少したが、預貯金詐欺や還付金詐欺が多発したことにより、認知件数は159件と、前年比で45件増加し、目標を達成することはできなかった。

6 今後の施策推進に向けての課題

犯人からの最初の接触の約8割が自宅の固定電話であったことから、特殊詐欺対策の柱を「固定電話対策」と位置付け、「鍵掛けで『安全』・電話対策で『安心』～今こそみんなで防犯対策！推進キャンペーン～」と銘打った広報施策を強力に展開し、防犯機能付き電話や留守番電話設定の活用を広く県民に周知していく。また、金融機関等との連携を強化し、官民一体となった水際対策を推進するとともに、高齢者を取り巻く関係機関・団体や子ども・孫世代に対し、相談しやすい環境の整備に向けた働きかけを推進していく。取締りの面では、積極的かつ効果的ながう撃捜査により、受け子等の実行役を早期に検挙するとともに、突き上げ捜査を徹底して上位被疑者を検挙し、犯罪グループ等の解明、壊滅を図っていく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 警察本部 生活安全部

重点戦略	III 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】少年非行防止対策の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	小・中・高等学校（義務教育学校、中等教育学校を含む）における非行防止教室の実施率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	100.0% (2019年)	実績値	68.3	99.7		
目標値	100.0%	達成率	68.3%	99.7%		
備考		達成度	2	※4		

3 関連する事業名

- ・「心と命の教育活動」の推進
- ・規範意識向上、再非行防止対策の推進

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2022年中は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、県内すべての小・中・高等学校において非行防止教室を開催することは困難な状況であったが、事前収録やリモート方式、少人数形式等を活用して可能な限り開催し、少年の規範意識向上に努めた。

6 今後の施策推進に向けての課題

県下の非行情勢は、長期的に見れば改善傾向を維持しているものの、2022年中は刑法犯少年・非行率共に10年ぶりに前年比で増加しており、予断を許さない状況にある。さらなる非行情勢改善のため、学校等と連携した効果的な非行防止教室の開催等により、少年の規範意識向上を図っていく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室 県民生活部 暮らし安全安心課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム	
施策名	【推進】消費者被害の防止等の推進	

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	見守り力アップ講座受講者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	360	820	1,280	1,740
現況値	438人(2019年度)	実績値	299	737		
目標値	1,740人(4年間累計)	達成率	83.1%	89.9%		
備考	目標値は2021~2024年度の累計	達成度	3	3		

3 関連する事業名

- ・消費者行政活性化事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

民生委員など、地域において高齢者等の見守り活動を行っている方が属する団体等を対象として、最新の消費者被害に関する情報や見守りのポイントなどに関する出前講座(見守り力アップ講座)を実施することにより、地域における消費者被害への対応力の向上を図ることができた。
令和4年度は、依然として新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りながらの開催であったため、目標値として掲げる受講者数には到達しなかったが、開催回数を増やすなどの工夫を行い、前年度の約1.5倍の受講者数となった。

6 今後の施策推進に向けての課題

「第4次岡山県消費生活基本計画」において、「消費者安全確保地域協議会(高齢者等の消費者被害を防止するための地域の見守りネットワーク)」を令和7年度末までに10市町村で設立することを目標としていることから、引き続き、見守り力アップ講座の開催により、地域の見守り力の向上を図りつつ、各市町村に対しては「消費者安全確保地域協議会」の設置に向けた働きかけや支援を行う。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【推進】サイバー空間の安全確保に向けた取組の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	サイバー犯罪被害防止セミナーの受講者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	3,400	3,400	3,400	3,400
現況値	1,874人(2020年)	実績値	2,763	5,112		
目標値	3,400人	達成率	81.3%	150.4%		
備考		達成度	3	5		

3 関連する事業名

- ・サイバーセキュリティ意識向上対策の推進
- ・サイバー犯罪に対する取締りの推進

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2022年中は、「サイバー犯罪体験型コンテンツ」を活用したセミナーの開催等、効果的な広報啓発活動を推進した。セミナーの参加者からは、「大変勉強になった。会合の都度、他の参加者にも紹介している」などの感想が寄せられ、好評であった。実際に、「主催する会合でセミナーを開催してほしい」などの要望が多数寄せられるようになるなど、県民のサイバーセキュリティ意識の向上が認められ、目標についても達成することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

県民のサイバーセキュリティ意識向上のため、「サイバー犯罪体験型コンテンツ」を活用したセミナーを継続的に開催するとともに、最新のサイバー犯罪の手口やぜい弱性を狙った手法を分かりやすく説明するなどして、サイバー犯罪被害防止に努めていく。

2023年度 施策評価シート(2022年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 警察本部 刑事部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】暴力団をはじめとする組織犯罪対策の推進

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	暴力団対策法の適用件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	8	8	8	8
現況値	6件(2019年)	実績値	8	8		
目標値	8件	達成率	100%	100%		
備考		達成度	4	4		

3 関連する事業名

- ・拳銃・特殊犯罪対策の推進
- ・暴力団排除活動推進事業
- ・暴力団離脱者就労受入企業に対する損害補償事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

暴力団対策では、六代目山口組の分裂に伴う対立抗争に起因するとみられる拳銃発砲事件等の暴力団犯罪67件を検挙したほか、六代目山口組と池田組の対立が激化したことを受け、2022年12月、両団体を特定抗争指定暴力団等に指定し、岡山市を警戒区域に設定した。また、暴力団対策法の適用については、みかじめ料名目に現金を要求した暴力団幹部に対して中止命令を発出するなど、行政命令を8件発出した。銃器対策では、暴力団関係者からの押収3丁を含む11丁の拳銃を押収したほか、違法銃器の根絶を呼びかけるポスターを作成するなど、幅広い広報啓発活動を推進した。薬物対策では、密売人を含む186人を検挙したほか、薬物の危険性や有害性に関する正しい知識の普及に向けた広報啓発活動を推進した。

6 今後の施策推進に向けての課題

暴力団対策では、六代目山口組の分裂に伴う対立抗争はまだ継続しており、予断を許さない状況にあることから、引き続き、県民の安全確保を最優先とした警戒活動や情報収集による先制的な取締りにより、抗争事件を封圧するとともに、暴力団対策法の積極的な適用により、暴力団組織の壊滅・弱体化を図っていく。銃器対策では、違法銃器の根絶に向けた広報啓発活動を推進するとともに、暴力団等が管理する武器庫の摘発に努める。薬物対策では、若年層における乱用拡大が顕著である大麻事犯に対する徹底した取締りに加え、薬物の危険性や有害性に関する正しい知識の普及に向けた広報啓発活動を推進していく。